

人文学分野の論文データベース収録状況：CiNii評価の試み

An attempt of evaluation of CiNii compared with the humanitie's database field

後藤 宣子*

Nobuko GOTO

近年、日本語文献においても人文・社会科学分野論文を網羅的かつ容易に検索を行うことが可能になってきているが、人文・社会科学分野の視点からの論文データベースの利用などの調査はあまり進んでいない。

本稿では、人文学分野を中心に、CiNiiおよび国文学・宗教学分野のデータベースにおいて、論文検索・比較を行った。その結果、CiNii収録誌は、各分野作成のデータベース収録誌を網羅できておらず、人文学分野では、未収録の紀要・年報の他に、書籍や一般雑誌などの査読誌以外の情報源が多く存在した。

1. はじめに

近年、人文・社会科学論文を網羅的かつ容易に検索を行うことが可能になってきている。特に国立情報学研究所が提供するCiNii (NII論文情報ナビゲータ)¹⁾は、科学技術論文以外の分野もカバーする、日本を代表する論文データベースである。しかしながら、実際に研究者レベルでの論文探索を行うとき、はたして利用者の要求に答えているのだろうか。

本稿では、検索機能の比較ではなく、書誌情報の収録状況・充実といった観点から調査を行う。方法としては、CiNiiと各分野のデータベースを、特定キーワードによる論文抽出を行い、

該当論文の有無、収録誌を確認した。

1.1 人文学分野における論文検索サービス

日本を代表するデータベースとしては、科学技術興機構 (JST) が提供する「JDream II」、医学中央雑誌刊行会の「医中誌Web」など、科学技術論文を主な対象としているデータベースが発達してきた。

一方、人文・社会科学分野では、国文学研究資料館²⁾や旧学術情報センターが提供してきた論文データベースなどが存在するが、科学技術分野の研究者ほどに利用が認知・利用されてこなかったと言われている。また、人文学分野では、論文データベース以外に、主に絵画や古典籍を画像・フルテキストに加工処理し、データベース化する研究は多く行われてきた。

人文・社会科学研究者の情報探索研究は、重要な研究課題と考えられるが、科学技術分野研究者に比べてあまり進んでおらず、今後の課題となっている³⁾。また、人文・社会科学分野は、科学技術分野に比べて研究、出版などの様相が異なることが、指摘されている⁴⁾。多種多様な情報源、比較的古い年代の論文の利用などが挙げられる。

現在、CiNiiでは、各大学などの紀要までも収録誌の対象に広げている最中であるが、本稿

* 愛知淑徳大学大学院

Graduate School, Aichi Shukutoku University

JOURNAL OF LIBRARY AND INFORMATION SCIENCE. Vol. 21, p. 67-71 (2007)

では、実際に人文学分研究者の利用にどの程度応えているか、予備調査を行った。

2. 調査

今回調査の対象としたデータベースは、CiNii, ReaD, 国文学資料館, 曹洞宗関係文献目録である。

調査対象データベースは、比較的収録数があり、その分野を専門とする研究者が広く認知し、利用していると考えられるデータベースを採用した。また、今回の調査では、CiNiiとの比較を行うため、日本国内に多くの研究者が存在すると考えられる分野でありデータベースが有名であっても、日本語を主要言語としない分野は対象としないこととした。

本稿は、データベースの検索機能の評価を目的としたものではない。論文抽出は、データベース共通に検索可能であった、著者検索、フリーワード検索（データ中に特定キーワードが存在しているか）または、それに相当する検索を行った。データベースによっては、各論文にキーワードを付与しフリーワード検索に使用するもの、単に論文の書誌事項のみを対象とした検索といったシステム上の差があったため、出来る限り共通の検索を行うこととした。また、検索結果にあきらかに想定しない分野の論文が含まれることがあったときには、今回の調査では、検索者が想定した範囲以外の論文は調査からはずすこととした⁵⁾。

CiNiiを評価するため、1)研究者自身が自己の主要論文とした論文がCiNiiに収録されているか、2)CiNiiと人文学分野データベースの論文収録状況を比較した。

1)研究者自身によって主要論文と認識された文献の収録状況をReaD研究者記載情報によって選択し、CiNiiに収録されているか、2)人文学分野のデータベースのうち、学術論文を収録対象とし、かつ、一般に公開され、機械的に検索することができる2分野のデータベース(国文学研究資料館・曹洞宗関係文献目録⁶⁾)を

利用し調査を行った。このとき、データベースの収録期間による影響を避けるため、特定年次(1998年)を対象として、共通の検索語を用いて論文を抽出した。

3. 調査対象としたデータベース

本稿で使用したデータベースは以下の通りである。

1) CiNii (NII論文情報ナビゲータ)

NII Scholaly and Academic Information Navigator

CiNiiは国立情報学研究所が提供する文献検索システムであり、国立情報学研究所の電子図書館サービス、国立国会図書館の雑誌記事索引データベース、各大学・協会が発行する紀要などを対象とし、2007年12月10現在、収録数CiNii約1160万件(2007年12月現在、CitationIndexは平成19年度終了予定)であり、日本を代表する論文データベースである。

これらのデータは、学術関係者のみを対象にせず、一般にも無料で検索および制限付きの全文閲覧が可能となっている(2007年現在)。

2) ReaD

Directory Database of Research and Development Activities

研究開発支援総合ディレクトリReaDは、産学間連携、研究成果の活用・促進を目的とし、国内の大学・公的研究機関等に関する機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を収集・提供している。研究者は20万人の情報があり、研究者自身によって記述された研究者情報(主要論文・著作一覧を含む)が記載されている。ただし、ReaDは研究者の任意による記入のため、研究者すべての記入はない。

3) 曹洞宗関係文献目録

曹洞宗関係文献目録オンライン検索

曹洞宗宗学研究所が提供している『曹洞宗関係文献目録』は、曹洞宗宗務庁平成2年発行『宗学研究紀要』(旧『宗学研究所紀要』)所載データのオンライン版であり、明治以降、平成

14年（2003）3月までに刊行された、道元、瑩山および日本の曹洞宗に関する文献を収録している。

国立の研究機関によらないデータベースを選択した。特定の専門分野が必要としている文献がどのようなものであるか、一例として長い研究史を持つ分野を選択した。

4）国文学論文目録データベース

国文学研究資料館が提供する日本文学研究論文の総合目録データベース（大正・昭和・平成）であり、「国文学年鑑」作成方針に基づき、日本国内で発表された国文学関係の研究論文目録である。2007年12月現在、大正元年から平成18年のデータを公開している。隣接分野の論文情報も含まれているため、他分野からの利用もあるとされる。

4. 調査結果と考察

4.1 ReaD

日本史（古代史・近代）、国文学（古代、近世）、化学（高分子・医化学）の計6名を対象に、ReaD記載の論文がCiNiiに収録されているかを調査した。調査対象者は、ReaDに記載のある教授および准（助）教授であり、人文学分野と人文学分野以外の例として化学分野の研究者とした。結果は表1である。なお、CiNiiは基本的に単著による書籍の登録が無い。研究者の成果物として、CiNiiはReaDの業績情報すべてを含んでいないため、論文のみの比較とした。表1の「重複」はReaDとCiNii両方に同じ論文が収録されていた数である。

ReaDに記載があり、CiNiiに収録されていない雑誌には、日本史では、1980年代以前の学術雑誌（『芸林』、『社会経済史学』など）や地方市町村紀要が含まれていた。国文学においても、雑誌毎に状況は異なるが、年代が遡るに従い論文の収録が少なくなる。また、人文学分野の研究者は、学術雑誌以外への投稿も行っている。

比較的古い論文や大学などの学術機関に属さない論文も使用する人文学分野にとっては、

CiNii収録誌の充実が期待される。学術雑誌・紀要以外の雑誌を含め、どの程度の年代まで収録対象とするか、今後の研究課題となるだろう。

一方、科学分野では、CiNii収録文献では、原著論文に相当する論文ではなく、比較的軽い記事が収録されており、一般に検索・閲覧可能な範囲では海外誌が含まれていない。そのため、ReaD記載論文のほとんどがCiNiiに存在しなかった。科学技術分野の主要学術雑誌が、基本的に論文は英語で記述されることが多いことによる影響と考えられる。

表1

研究分野	ReaD	CiNii	重複
古代史	26	26	11
近世	13	19	5
古代	13	35	1
近世	15	81	6
高分子	28	20	0
医化学	3	27	0

4.2 曹洞宗関係文献目録

“道元”“H10”を検索語として、フリーワード検索を行った。CiNiiでは31件（医学関係3件を除く）、曹洞宗関係文献目録では59件、重複15件であった。CiNiiおよび曹洞宗関係目録で重複しなかった論文を収録した雑誌を表2に示した。

曹洞宗関係文献目録には、学術論文誌以外の著作、出版物が相当数含まれていた。また、学術論文であっても、機関によっては、紀要や年報がCiNiiに含まれていないこともあった。どの範囲まで収録すべきか、今後の課題となるだろう。

4.3 国文学論文目録データベース

“道元”“1998-1998”で検索した結果、14件がヒットした。重複データは、曹洞宗関係文献目録では7件、CiNiiでは4件であった。人文

学での雑誌の出版年次は若干異同があるため、同じ年度内でヒットしない可能性もあるが、今回、曹洞宗関係文献目録論文中、CiNiiに重複しなかった残り52件は国文学論文データベースにも収録されていなかった。

国文学論文目録データベースでは、国文学に関する論文ではないと判断された論文は収録されないため、雑誌としては収録誌に入っているが、研究対象の違いから、同じ雑誌でも収録されていない論文があることが確認された(『宗学研究』など)。個々の分野で構築された専門的なデータベースは、近い学問領域であっても多分野の研究者の要求には充分応えているとは言い難い。

4.4 考察

ReaD記載論文は、CiNiiに必ずしも収録されていない。また、国文学および仏教関係のデータベースが収録している論文もCiNiiにすべてが収録されていると言えなかった。表2からでは、仏教関係という特殊な分野ではあるが、学術雑誌・紀要に相当する雑誌がCiNiiには収録されていない例が散在することがわかる。同様に、国文学論文データベースとCiNiiの関係においても、学術雑誌に相当する雑誌がCiNiiには収録されていないことがあった。調査対象とした年代設定や抽出方法による問題も指摘できるだろうが、今回の調査からでは、CiNiiが収録する書誌情報は充分ではない、と考えられる。

人文学分野においては、従来からその分野ごとの書誌・論文目録が作成されてきた。それら目録の構成は、研究の入門書から専門的な書籍・論文までを収録することが多い。人文学分野においては、論文の発表以上に著作物の出版が重要視されていると言われている。また、人文学を対象としたデータベースは、過去の古典籍を映像化・フルテキスト化することが多く、単独で存在することが多い。一般の研究者に広く認知されているとは言い難い。論文情報データベースも個々の分野では存在するが、網羅的なデー

タベースは無い。

CiNiiは、分野を特定した収集を行っていない。一方、広い分野の研究者がよく利用するデータベースでもある。収録誌の対象を、どの程度どの範囲で進めていくべきか議論の待たれる問題である。

5. まとめ

本稿では、人文学分野において、CiNii収録誌はどの程度論文を網羅しているかの調査を試みた。

結果、CiNii収録対象誌は、人文学分野の要求に充分に応えているとは言い難い。学術雑誌、各大学の紀要や年報も、有名誌であっても少し古い年代は収録されていない。またすべての紀要や年報が対象となっていないこと(平成19年8月現在)⁷⁾から、主要データは整っていないと言える。

さらに、人文学分野においては、学術論文、紀要などの研究雑誌以外に掲載される論文や書籍も多く存在し、重要視されていると言われてきた。実際に、曹洞宗関係文献目録では、書籍を論文と同様に収録の対象としている。論文と書籍の書誌情報をどのように取り扱うべきか、今後の課題といえるのではない。

今回の調査は、非常に少ない例をもとに粗雑な議論を行っている可能性は否定できないが、日々体感する検索結果とほぼ同様の調査結果であった。今回は、日本語を主要言語とする分野を扱った。比較対象となるデータベースそのものは多く存在しないが、参考になりうる過去の業績は多い。科学技術分野に比べて人文・社会科学分野を対象とした図書館情報学的研究が少ないことが、調査結果の原因のひとつかもしれない。CiNii提供開始から数年の間に、日々収録誌が増加している。今後は、従来の科学分野研究者を主な利用者として発達してきたサービスを踏まえた上で、より充実したサービスを期待したい。

表 2

<http://www.nii.ac.jp/nels/>
(cited 2007-12-10)

重複以外の出版物の例 (曹洞宗関係文献目録に対して)	
CiNiiのみ	曹洞宗関係文献目録のみ
曹洞宗研究員研究紀要	傘松
ひろばユニオン	禅の風
宗学研究	大法輪
東海仏教(東海印度学仏教学会)	東北大学文学部研究年報
倉敷市立短期大学研究紀要	駒沢短期大学仏教論集
東京大学宗教学年報	教化研修
黄檗文華	宗教研究
埼玉大学紀要	印度哲学仏教学
愛知学院大学教養部紀要	曹洞宗研究員研究紀要
季刊日本思想史	東洋学研究
	言語
	日本仏教学会年報

- 1) CiNii NII論文情報ナビゲータ
(<http://ci.nii.ac.jp/> cited 2007-12-20)
- 2) 国文学研究資料館
(<http://www.nijl.ac.jp/> cited 2007-12-20)
- 3) 村主朋英, 山西史子, 松井美紀. 歴史学におけるインターネット情報源の構造と利用状況. 第47回日本図書館情報学会研究大会発表要綱. 1999, p.9-12(1999-11-06)
<http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/sciencemedia/scmindex.html>
(cited 2007-12-10)
- 4) 篠山盛夫. 学術雑誌による人文・社会科学分野における国際研究動向の分析. NII Journal, 2001,2,59-70.
- 5) 人名などの固有名詞に検索語が含まれ, 科学技術関係論文が提示された場合は除外
- 6) 曹洞宗関係文献目録
<http://www.sotozen-net.or.jp/tmp/kensaku.htm> (cited 2007-12-20)
- 7) 国立情報学研究所. 国立情報学研究所が電子化する研究紀要に関する調査結果について(通知). 平成19年8月24日付学術雑誌公開支援事業